

調査期間 2014年10月16日～継続中
所在地 秦野市寺山
時代 近世、奈良・平安、縄文、旧石器
調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線秦野駅から北方約3kmに位置する。



主な調査成果

平成26年度の調査では、近世以降の段切りや溝状遺構・畝など耕作跡を発見しています。平安時代には掘立柱建物や竪穴住居を確認していますが、密集している位置関係ではありません。また灰釉陶器・瓦・瓦塔など官衙や寺域から出土する遺物が目立ちます。さらに墨書土器も2点出土していることから特別な場であった可能性が考えられます。縄文時代では中期の竪穴住居1軒、前期～後期に亘る集石遺構や陥し穴状土坑が検出され、後期旧石器時代に帰属するB0層・L1H層相当層からは石器や礫群を僅かに確認しています。



古代 竪穴住居（北から）



墨書土器「子」出土状況



古代 土坑出土片刃箭



縄文時代の住居検出状況